

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

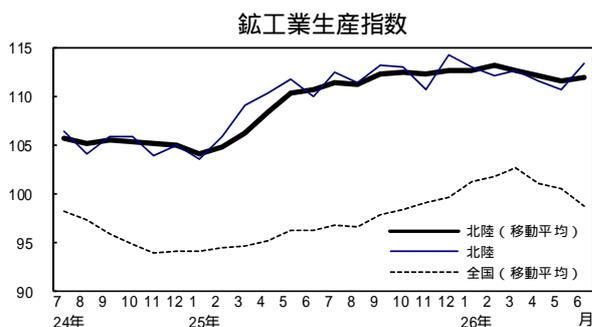
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年5月)	今回(平成26年8月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、おおむね横ばいとなっている
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるが、おおむね横ばいとなっている。

4～6月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向け電子部品が好調なこと等から増加した。化学は、後発医薬品や新薬が好調なこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、金属工作機械が低調なこと等から減少した。繊維は、海外向け衣料品が好調なこと等から増加した。金属製品は、住宅向けアルミニウムサッシ等の建築用金属製品が低調なこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	20.8	12.3	8.5	4.1	2.5	10.9
化学	13.5	1.1	1.9	2.4	3.1	2.3
はん用・生産用・業務用機械	12.7	8.6	13.8	10.4	18.8	5.8
繊維	8.4	3.4	1.4	0.4	1.8	1.2
金属製品	6.0	3.4	6.5	5.4	5.1	0.9
鉱工業	100.0	0.0	0.6	1.0	0.7	2.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

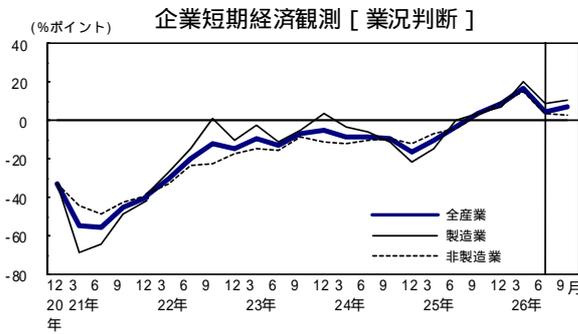
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

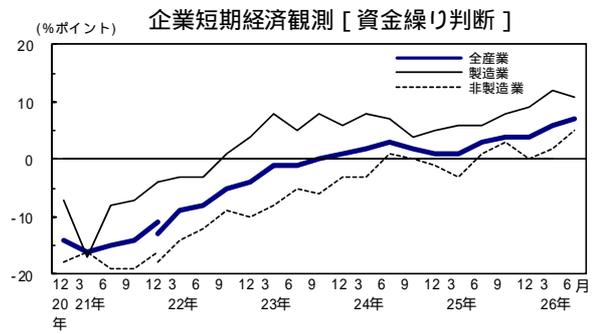
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

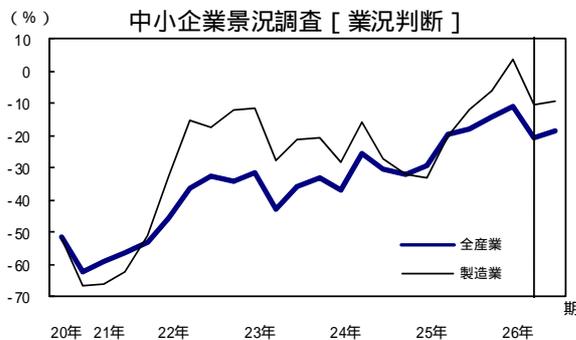
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年9月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

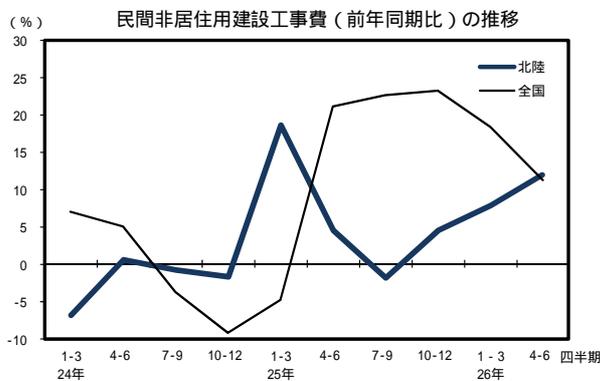


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「工事の見積入札物件が高水準で続いており、業界全体の施工能力が手一杯で、受注価格競争は緩和状態が続いている(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績	26年度計画
全産業	2.3(2.4)	17.3(7.6)
製造業	5.1(5.0)	34.5(14.7)
非製造業	0.7(0.4)	0.7(0.8)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比11.7%減、5月は同0.8%増、6月は同1.1%増となった。

大型小売店販売額

百貨店については、4月は、消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動等から前年を下回った。

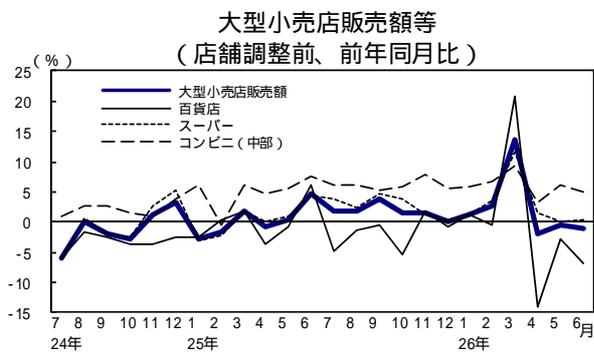
5月は、高額品や衣料品を中心に消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動が続いている等から前年を下回った。6月は、例年より梅雨入りが早く夏物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。

スーパーは、消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動が薄く、生鮮食品の相場高により前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、48.2となり前月より4.3ポイント上昇した。

「消費税増税の反動があったが、7月に入ってから販売量が確実に増加している(一般小売店[精肉])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

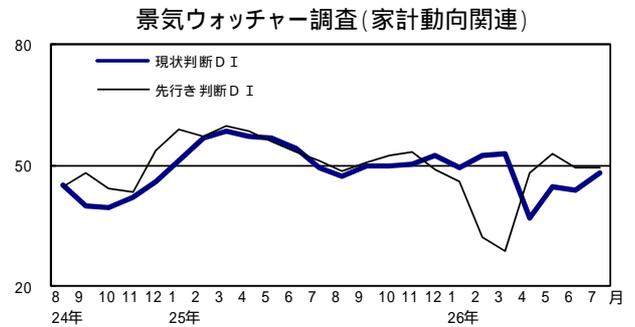
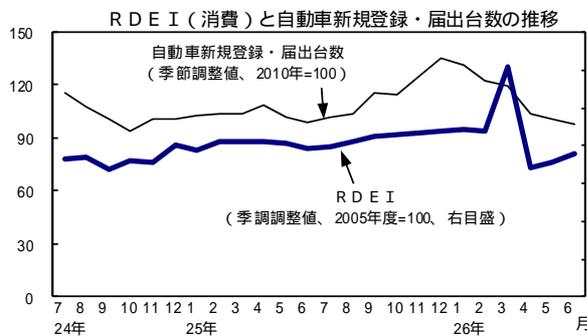


	26年4-6月	26年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	6.4	11.7	0.8	1.1
大型小売店(*2)	1.1	1.8	0.4	1.1
百貨店(*2)	7.8	14.0	2.9	6.7
スーパー(*2)	0.7	1.6	0.2	0.5
コンビニ(*2)	4.8	3.3	6.1	4.9
乗用車(*3)	1.8	4.4	2.0	0.5
(季節調整値)(*3)	18.9	13.0	2.9	3.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)、コンビニは中部

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

